

留 学 生 通 信

ペルーの教育システム

Education in Peru

ウルバノ グチェレズ
ファン バルタザル
URBANO GUTIERREZ
JUAN BALTAZAR

2002年豊橋技術科学大学大学院修士課程修了

■主として行っている業務・研究
・全方向移動車いすの制御研究

■所属学会および主な活動

SICE

■通学先

豊橋技術科学大学 大学院生産システム工学

系 システム制御研究室 博士後期課程

(〒441-8580 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1/

E-mail : juan@syscon.pse.tut.ac.jp)



私は南アメリカのペルーのチュービヨ市で生まれ、1999年4月に国費留学生として日本に来た。最初の6箇月間は三重大学で日本語の勉強を済ませた。2000年の4月に豊橋技術大学の寺嶋一彦教授のシステム制御研究室に入り、2002年3月に修士課程を修了し、引き続き同じ研究室で博士後期課程として在籍中である。

日本に来て約7年、日本の教育システムが良くわかった上で、今回はペルーの教育システムについてお話しさせていただく。

日本と同じ、ペルーではアカデミックも4月から授業開始することになる。しかし日本と違って、アカデミックは12月までとなり、それから1月～3月は夏休みである。地図を見るとすぐわかると思う。ペルーは赤道

の下に位置するため、季節は日本と正反対になる。日本が正月の寒い時期、ペルーでは真夏の時期である。

ペルーでは幼稚園から高校までアカデミックが4学期に分けられる。毎学期は大体2箇月を占める。1学期、2学期と3学期、4学期の間に2週間の冬休みがある。大学ではアカデミックが2学期に分けられる。1学期が終わったら2週間の冬休みに入る。2学期が終わったら夏休みに入る。

ペルーで子供たちは4歳から幼稚園に通うことになる。そこで2年間を済ませる。最近では3歳から幼稚園に通う子供たちも増えている。これには二つの原因がある。第一は、子供たちの教育時間を増加させるため。第二は、最近ペルーでも結婚している女性たちが仕事を続けるようになった。



TRUJILLO
PERÚ



そのため、母親の仕事の関係で、子供を幼稚園に行かせる時期が早くなったのである。

子供たちは幼稚園に通ったことがあるかどうかに関係なく、6歳になったら小学校に通えるようになる。公立小学校の近くに住めばその小学校に入れる。しかし私立小学校に入るためには入学試験を受けなければならない。

日本と同様、ペルーでも学生たちは高校までは、制服を着なければならない。男の子は白いシャツ、グレーのパンツと黒い靴である。女の子は白いブラウス、グレーのスカートと黒い靴である。セーターを着なければグレーのセーターを着なければならない。

子供たちは6年間の小学校生活が終わったら高校に入る（もちろん成績が良くないと6年間で卒業ができない。この場合は同じ学年でもう1年

か2年間を勉強しなければならない）。

ペルーでは中学校がないため、高校で5年間を勉強することになる。これは日本の教育といちばん大きく違うところかもしれない。高校も小学校のように公立と私立に分けられている。

20年前までは、学生たちは高校で2年間の勉強を済ませてから専門学校に行きそこで勉強する実験コースがあった。あるいは、学生たちは2年の勉強を終わらせたなら二つの選択方向があった。高校での勉強を続けるのか、それとも専門学校に入るのかである。もし高校を続けることになったら、将来は大学に入る可能性がある。もし専門学校に入ったら、そこで3年間の勉強をして、将来は技術者として働くことができる。しかし専門学校の教育、設備が不十分のため、結局そ

の実験コースが失敗することになった。

学生たちは5年間の高校が終わったら、大学か専門学校の入学試験を受け、進学ができる。ペルーの専門学校は日本の専門学校と大体同じで、さまざまな分野での課程が提供される。以下にペルーの大学を紹介させていただく。

ペルーで大学に入るためには、公立大学か私立大学かに関係なく、入学試験を受けなければならない。大学の入学試験は大体高校卒業後、3箇月以内に行われる。

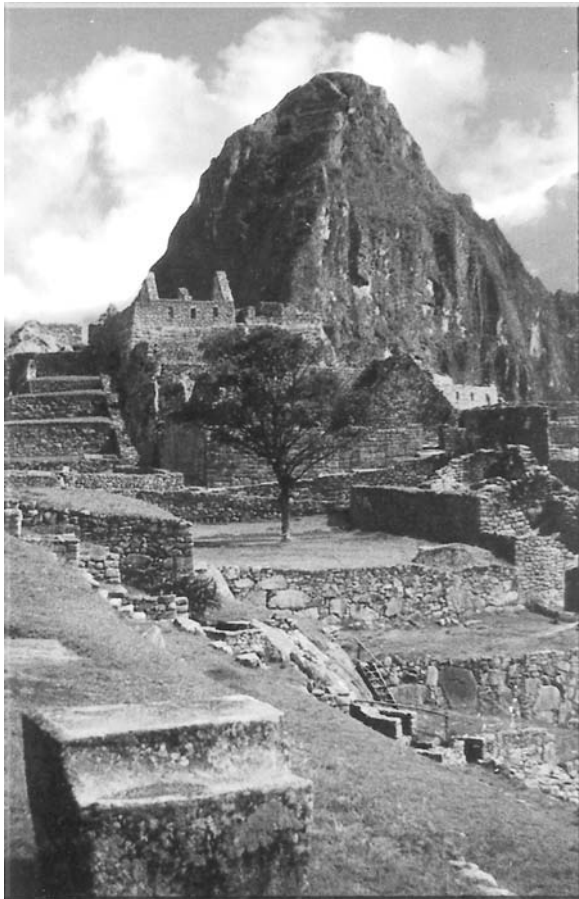
SPI (Synthetic Personality Inventory) 試験と各科目の筆記試験が含まれる。学部によって各科目に違う点数が配点される。例えば、工学部では、数学、物理、化学の配点がいちばん高くなる。医学部では、生物、解剖学、植物の配点がいちばん高くなる。以下の数字を見ればわかりやすいだろう。（もちろんこれは筆者が例として挙げた数字、本当に試験の時配布された点数ではない。）

工学部：	数学	物理	化学	生物	解剖学	植物
	100	100	100	50	50	50
医学部：	数学	物理	化学	生物	解剖学	植物
	50	50	50	100	100	100

入学試験のいちばん大きな問題は、入学試験で出される問題が、普段高校で学んだ知識を大幅に超えている点である。このため学生たちは必要な知識を学ぶために、予備校に通わなければならない。当然、そこで普段高校で学べない知識を学ぶことができる。しかし勉強すべき知識がいっぱいあるため、入学試験直前の3箇月で全部マスターするのはとても無理なことであり、競争の激しい学部に入りたい学生たちは大体、高校3年から予備校に通うことになる。

ペルーでは日本と違って、大学を卒業してもエンジニアとして働けない。それは大学から授与されるのは「学士」という学位だけで、もしエンジニアとして働きたい場合には、自分が大学の研究室の設備を利用し、実験をし、論文を書く必要がある。エンジニアになるのはとても難しい（10%以下）。そのためみんなほぼ大学を卒業した後は、エンジニア以外の職種に就職することになる。

以上のように、これがペルーの教育システムである。



 **Machupicchu**
CUSCO - PERU